下味野地区の子供会活動

同和問題シリーズ

▷11

大きく広がる連帯の輪

下味野児童館厚生員　**藤原　孝子**

同和地区の子供たちをとりまく家庭や地域の環境諸条件は、年々整備され向上していますが、まだ部落差別は厳然として根強く存在しています。

このような条件の中で、下味野子供会では、子供たちが自らの手で部落を解放して行く心身ともにたくましい社会人に育ち、集団生活の中から問題を掘り起こし、自らを高め、人権に目ざめ、連帯して身のまわりにある不合理や矛盾を積極的に解決して行く部落解放の担い手となるよう、保護者と一体となって日夜、活動を進めており、子供会独自の行事や親子の親ぼくを深める行事を組んでいます。

子供会は毎年四月に五、六年生全員で総会を開き、役員と年間の行事計画を決めます。また、ＰＴＡは親子一諸の行事と子供たちの決めた行事の予算を決め、協力、指導態勢を整えます。

昨年一年間の主な活動は《一月》もちつき大会、書き初め会、とんどさん《二月》親子ピンポン大会《三月》卒業生を送る会、卒業生一泊研修《四月》一年生を迎える会《五月》運動会、市こどもまつり参加《六月》親子ソフトボール大会《七月》たなばた《八月》公共施設の奉仕作業（親子）、花火、のど自慢大会《九月》親子遠足《十月》奉仕作業《十一月》映画会《十二月》廃品回収、クリスマスパーティー――です。

また学力の向上と差別を見抜き差別に打ち勝つ子供を育てるため、小学校、隣保館、児童館が一諸になり、人権学習(部落の生い立ち、人権問題、差別の実態など)、助け合い学習をそれぞれ週一回実施し自主学習の指導に当たっています。

子供会独自の行事で代表的なものを紹介します。

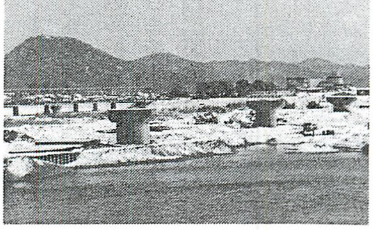
「おたのしみ会」は自分たちの力で会の内容を一カ月程前から話し合って決めます。昨年の場合は、一、二、三各区の対抗で、劇、ゲーム、歌、見る態度などで得点を競う方法で進められました。ゲームは個人と団体のがあり、する人も応援する人も一生懸命で一番盛り上がる場面です。また、五、六年生が中心になり、何日もかけて作った紙芝居を見せたり、上級生が下級生の見る態度を注意したりしている姿など、最も評価してやりたいと思います。そのほか、親子でやる代表的なものに「運動会」があります。毎年五月五日（こどもの日）に行われ、いつも遊ぶだけの遊園地も、この日ばかりは笑いと楽しさでいっぱいの遊園地へと変わり、昼食時には遊園地いっぱいになって弁当を食べるなど、とてもほほえましい風景です。

このように活動し始めて三年が経過しましたが、大きな成果を得ています。それは、昨年子供会のリーダーであった子供たちが「中一の会」を作り自主的に活動していることです。これからは中学生全員を対象とする会へと進めて行きたいと思います。

これからは、保護者と子供会だけの連帯だけでなく、子供会から中学生の会へ、高校友の会へ、青年団へ、ＰＴＡへ、といつまでも絶えることなく、多くの連帯の輪が広がって行くように願っています。

市政ニュース

新千代橋の整備進む　51年12月に起工された新千代橋（千代橋上流約350㍍）の整備は下部工のうち、すでに着工されている橋脚4基に加え、近く残りの橋脚2基と左右岸の橋台などの工事に取りかかる予定となっています。この新千代橋は都市計画道路・停車場布勢線（計画延長4940㍍、平均幅員16㍍）の一部で、完成すれば全長426㍍と、境水道大橋（全長433㍍）に次ぐ県下2番目の長大橋となり、千代橋周辺の交通渋滞の解消に大きな役割を果たすことになり、60年国体開催へ向けて事業が推進されています。



若草学園が幼児通園施設に　湖山町西1丁目の若草学園は、これまでは6歳から18歳までの障害児童・生徒を対象とした通園施設でしたが、昨年11月に新設された県立白兎養護学校に全員が転校、現在は保育所と同じ年齢の障害幼児だけの通園施設として運営されています。現在の園児は10人（定員30人）で、通園バスで送迎しており、湖山保育所との交流保育を行うほか、各分野で専門的な指導を実施し、障害幼児の専門通園施設として保護訓練するよう、保育内容の充実を図っています。

美穂保育所の定員が120人に　上味野地内の美穂保育所の改築が完成、2月1日から新園舎での保育が行われています。定員は100人（3歳以上児のみ）から、120人に増え、4月からは3歳未満児24人の保育も行うことになります。建物は鉄骨ブロック造り2階建てで、延べ面積は696平方㍍。敷地は1800平方㍍。総事業費は約7900万円。

文化財防火デーに防火訓練　1月26日は第24回文化財防火デー。消防本部は、重要文化財仁風閣、同樗谿神社、保護文化財聖神社を対象に各種消防用設備などの定期的点検の励行、たき火、たばこなど使用禁止区域の設定とその励行などを呼びかけました。また、仁風閣では、9時30分、一階廊下の天井部分から出火したとの想定で、火災防ぎょ訓練が行われました。館内の自動火災報知設備により火災を感知した職員が直ちに119番へ通報、東町出張所から1分40秒後に消防車が到着、隊員5人がてきぱきと放水準備し、約5分間放水が行われました。